

〔第5回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

オーラルメディシンの新展開

口腔疾患研究部
松下 健二 部長

2016年1月12日(火) 16時40分～17時10分
第1研究棟2階大会議室

「口腔の感染症が全身の重篤な疾患の引き金になっている」といったアイデアがヒポクラテスの時代から提唱されている。慢性・難治性の口腔感染症は、細菌性心内膜炎、糸球体腎炎、関節炎、皮膚炎等の現病巣となる可能性が指摘されてきたが、そのプロセスやメカニズムについてはほとんど明らかにされていない。一方近年、疫学、臨床、および基礎研究の成果から、歯周病とメタボリックシンドローム等との関わりが解明されつつある。我々も、歯周病という細菌感染症が虚血性疾患や糖尿病等の、血管を“病の座”とする疾患の増悪に関与することを明らかにしてきた。加えて、歯周病原細菌の感染が認知症を増悪する可能性も見出した。今後は、口腔内と腸内フローラの連関を基盤とした、歯性病巣感染の新しい機序が検討されていくかもしれない。

「口腔は病気の入り口」でありながら、その重要性が十分理解されているとは言いがたい。我々は、口腔の健康増進がヘルスプロモーションに大きく貢献するというエビデンスを蓄積し、その成果を今後も社会に発信していきたいと考えている。

座長：上住 円